



修了生の声

山陽鉄工株式会社

森原 愛子 さん

令和4年11月 ポリテクセンター岡山 溶接技術科 入所
令和5年 4月 ポリテクセンター岡山 溶接技術科 修了
令和5年 5月 山陽鉄工株式会社 入社

なぜ溶接技術科を受講されたのですか？

前職の離職にあたって、今後は手に職を付ける、いわゆる『職人』の仕事がしたいと思っていました。

そんな気持ちでネットで調べていたところ、ポリテクセンターのホームページに辿り着き、自分に合う科を探しました。その結果、溶接技術科を選びましたが、その理由は他科の内容と比べて、溶接が『直感的な作業』だと思ったからです。

実際に溶接をしてどうでしたか？

何人かの受講生は溶接作業に中々慣れず苦勞されたようでしたが、私は最初から手ごたえのある仕上がりで出来たので、溶接はとても楽しかったです。ただ、溶接の時間は鉄工作業の全工程の中では予想以上に短く、むしろ溶接以外のグラインダ作業やけがき、溶接前の材料加工や、溶接時の材料固定などの方に時間が掛かることは意外で、勉強になりました。



インターネット時の様子



アルミTIG溶接の様子

会社に入ってからどうでしたか？

溶接は一発勝負なのだというを実感しました。図面の指定どおり一発で仕上げれば良いですが、現実はその思うようにいかず、終わった後はグラインダによる補修が必要で、むしろグラインダを使っている時間の方が長い気がします。時折、一発で完璧に決まったときは爽快です。

溶接以外では、私は2次元で描かれた図面から、3次元の完成系を頭の中に描くのが苦手なので、先輩に聞きながら、図面の読取りのトレーニングを日々行っています。

また、溶接工といっても溶接以外の鉄工作業に加え、材料や製品を運ぶための天井クレーンの運転資格や玉掛けの作業資格も必要で、最近は資格取得ばかりで大変です。

女性でも、ものづくり現場で通用しますか？

まず、この鉄工の業界は、世間一般で思われるほどガテン系の仕事ではありません。重いものを持つとしても20~25kgくらいで、それ以上はクレーンで運搬するので、極端に力持ちである必要はありません。むしろ、溶接作業は繊細なので、力技では良い溶接にはならず、丁寧な作業が求められます。そういう面では溶接作業は女性向きなのかもしれません。

最近やや辛いのは溶接が終わった後のグラインダ補修です。『溶接を一発で上手く仕上げる技量があれば、こんな補修もいらぬのに！』と思いながらやっています。とはいえ、それも含めて、特に不自由なく働いていますので、女性で興味がある方は、まずは挑戦してみてもいいのではないでしょうか？



採用者の声

山陽鉄工株式会社 片島工作部 手作業係
リーダー 岡崎 基宏 様

山陽鉄工株式会社

(本社・工場)

〒710-0805

岡山県倉敷市

片島町1010-1



電話：086-465-8585

FAX：086-465-7202

【事業内容】

航空機部品・特殊機械部品・大型アルミ高品位部品
及び大型精密機械部品の製造、溶接、切削加工



ポリテクの修了生を採用するメリットは？

一般での採用とは全然違う印象を受けます。訓練の中で製品作りの一連の流れを習得されてから入社されるので、本人に製品が完成するまでのイメージがあって教えやすいです。

特にポリテクの修了生だと、図面を読むところから、平板やアングル材の切断や穴あけ加工を経て、溶接で組み立てることまでを学んで来られる部分が良いと思っています。

ポリテクで覚えてきてほしいことは？

製品作りの始まりは、まずは図面読解です。工業製品の図面は、投影図という正面・側面・平面の三面が2次元で描かれたものなので、それらから3次元の立体形を頭の中で想像する必要があります。これは特にトレーニングが必要になる部分なので、訓練では是非とも覚えてきてほしい部分です。

訓練と比べて、実際の現場の図面や加工はもっと難しいものですが、それらは入社後に教えていきます。また、クレーン運転や玉掛け等の資格取得も会社指示で行います。訓練では、今後この業界で働くための下地を固めてきてほしいです。

これからものづくりの業界を目指す方へ

皆様の身の回りには金属で出来た製品はありますか？
きっと沢山あると思います。それはどこからか湧いて出たものではなく、誰かが材料から加工したから存在するものです。例えば、新幹線の乗車時にはホームドアがありますが、この一部は弊社が製造したものです。このように『自分が作ったものが社会に出て誰かに使われる』のが製造業です。

実際の製造の中では『自分の技量』が顕著に反映されます。溶接が上手ければ、補修に掛ける時間が短縮し、より多く製造できますし、それ以外にも難易度の高い加工もあります。今の自分の技量に満足せず『高い理想』を掲げ『向上心』を持って、より良いものを作ろうと取り組める人がこの業界に向いています。教える側としても、そのような『情熱』や『意欲』を持った人ほど技能の習得が早く、教える側としても教え甲斐のある人だと感じています。

第一には『やる気』です。ぜひ挑戦してみてください。